

視覚障害者の就労におけるICT環境と課題

－アンケートによる実態調査から見えてきたこと－

○山田 尚文（認定NPO法人視覚障害者の就労を支援する会（タートル）理事）
○伊藤 裕美（認定NPO法人視覚障害者の就労を支援する会（タートル）理事）
大橋 正彦・神田 信・熊懷 敬・高原 健・松坂 治男・吉泉 豊春
(認定NPO法人視覚障害者の就労を支援する会（タートル）)

1 はじめに

認定NPO 法人視覚障害者の就労を支援する会（通称：タートル、以下「タートル」という。）は、1995年の発足以来、30 年にわたり、視覚障害者の就労支援に特化した当事者団体として活動を展開してきた。事務局は東京都内に置いているが、スタッフや会員は全国に点在しており、全国組織として活動している。

本発表では、2020年に視覚障害者の就労におけるICT（Information and Telecommunication Technology）環境の課題解決のために立ち上げたICTサポートプロジェクトの活動を紹介するとともに、プロジェクトで実施したアンケート調査から見えてきた職場のICT環境の実態と課題について報告する。

2 背景

近年、視覚障害者の就労環境は大きく変化してきている。従来、視覚障害者の就労といえば、あはき（あんまマッサージ・鍼・灸）がイメージされることが多かったが、職場の事務仕事の多くが紙の書類からパソコン作業に置き換わり、スクリーンリーダー（画面読み上げソフト）などの支援機能の活用で多くの事務作業が音声で対応できるようになったことで視覚障害者の職域は確実に広がっている。

一方で近年の職場のICT環境はクラウドの導入やセキュリティ強化、さまざまな業務システムの導入など複雑化するとともに変化が激しく、こうした環境の変化への対応は働く視覚障害者へのストレスともなっており、こうした実態を職場や支援団体に知っていただくとともに、新しい環境に対応した合理的配慮や支援が必要となっている。

3 タートルICTサポートプロジェクトの活動

タートルでは、視覚に障害があっても当たり前に働くICT環境の実現を目指して2020年にICTサポートプロジェクトを立ち上げた。この時期は新型コロナ禍でリモートワークの広がりなど働き方に大きな変化が生じた時期である。スクリーンリーダーを用いて音声でパソコンを利用している多くの視覚障害者は、こうした環境への対応ができず苦労したケースも多かった。2020年12月に実施したアンケート調査では、84.6%の視覚障害者が職場のICT環境に

困りごとがあると回答した。

プロジェクトでは、こうした職場のICT環境の課題を参加者同士で支えあい解決を目指すというコンセプトで、グループメールによる情報交換の場の提供や、ICTサロン（オンラインの講演会や相談会）、アンケート等による実態調査、ポータルサイトによる情報発信などを行っている。

4 職場における視覚障害者のICT環境

ICTサポートプロジェクトでは、活動5年目にあたり、職場における視覚障害者のICT環境実態調査を実施した。アンケートは、2025年4月にタートル及び他の当事者団体で告知し、オンラインフォームで回答を集めた。回答総数は74件、回答者の職種は、事務系：37人（50%）、技術系：20人（27%）、専門職：10人（14%）、理療系：8人（11%）、営業・販売・サービス：6人（8%）、教員：3人（4%）、その他：4人（5%）であった。また、回答者の見え方については、目では全く文字を読めない方（全盲）：30人（40%）、拡大読書器やルーペなどの補助具を使えば文字が読める方が一文字ずつなら読める方と文章として読める方の合計（弱視）：39人（53%）、補助具なしで読める方：5人（7%）であった。

（1）勤務スタイル

在宅勤務の利用状況等勤務スタイルに関する質問への回答結果を図1に示す。

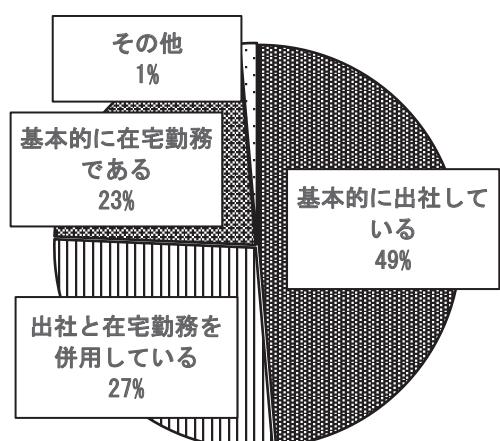


図1 勤務スタイル

前節で述べたようにプロジェクト立ち上げ時は、職場のシステムのセキュリティ制限やアクセシビリティ不足により、在宅勤務への移行から取り残される視覚障害者も少なくなつたが、現在は約半数の方が何らかの形で在宅勤務を活用していることがわかった。

(2) 職場で使用しているICT機器

表1に示すように、ほとんどの方がWindowsパソコンを使用している他、約半数の方がiPhoneを使用しており、iPadも18%の方が使用している。近年業務においてもスマホやタブレットなどの活用が進んできており、とりわけスクリーンリーダー（VoiceOver）や画面拡大・画面調整等のアクセシビリティ機能が標準装備されているiPhone/iPadの活用が拡がってきてていると思われる。

表1 業務で使用しているICT機器

使用しているICT機器	人数	%
Windows パソコン	70	95%
Mac	2	3%
iPhone	35	47%
iPad	13	18%
Android スマートフォン	6	8%
Android タブレット	2	3%
視覚支援機能を使っているものはない	1	1%
点字情報端末	1	1%

注： %は、回答総数74人に対する%

(3) 使用している視覚支援機能や補助具

使用している視覚支援機能や補助具は、スクリーンリーダーの利用が82%と最も多く、画面拡大・画面調整：51%、拡大読書器：28%、点字ディスプレイ：20%と続いている。これらを見え方別に分析すると、弱視の方の8割がスクリーンリーダーを、9割の方が画面拡大・画面調整を利用しておらず音声と拡大等を併用している方が多いことがわかる。一方で拡大読書器の利用率は5割にとどまっている。全盲の方については、約半数の方が音声と点字ディスプレイを併用していることがわかった。

表2 使用している視覚支援機能や補助具

視覚支援機能や補助具	人数	%
スクリーンリーダー	61	82%
PC やスマホの画面拡大・画面調整	38	51%
拡大読書器	21	28%
点字ディスプレイ	15	20%
点字プリンター	3	4%
特に使用していない	2	3%
その他	1	1%

注： %は、回答総数74人に対する%

5 職場のICTで困っていること

アンケートでは職場のICT環境に加えて、困りごとについて回答してもらった。表3は、その結果である。

近年、デジタル化の進展でさまざまな業務システムが導入されてきているが、こうした業務システムがスクリーンリーダーで使えない等で苦労している方が半数以上に上る。また、職場の文書のアクセシビリティが考慮されていないPDFや画像データで作成されており、スクリーンリーダーで読めないことで困っている方も各々半数超えている。他にOfficeやGoogleアプリに関するものや職場のセキュリティの影響、リモート環境に関するものも少なくない。

表3 職場のICTで困っていること

困っていること	人数	%
グループウェアや業務システムなどの社内システムについて	39人	53%
Office アプリや Google アプリについて	21人	28%
上記以外のアプリについて	12人	16%
PDF の扱いについて(中に含まれている画像、表、段組みの把握など)	44人	59%
各種画像データの扱いについて	42人	57%
リモート環境について	10人	14%
セキュリティによる影響について	21人	28%
特になし	9人	12%
その他	2人	3%

注： %は、回答総数74人に対する%

6 まとめ

職場環境のデジタル化が進むにつれて、視覚障害者の就労にはスクリーンリーダーなど支援機能を使ったパソコン操作などの訓練と支援が欠かせない。また、職場や業務特有の業務アプリなどへの対応は、視覚障害者のパソコン操作に精通したジョブコーチ等専門の支援が必要であるが、こうした専門的支援には、制度面の課題や人材不足、地域格差等課題も多い。また、視覚障害者のパソコン操作方法等が一般に知られていないため、スクリーンリーダーで読めない文書やデータが就労の妨げになっている場合も多い。

今回のアンケート結果よりさまざまな課題が見えてきており、タートルICTサポートプロジェクトでは、今後も定期的に実態把握を行うとともに、支援機関・関連団体とも連携して課題解決に取り組んでいきたいと考えている。

【連絡先】

認定NPO法人

視覚障害者の就労を支援する会（タートル）

電話： 03-3351-3208

メール： soudan@turtle.gr.jp

タートルホームページ： <https://www.turtle.gr.jp/>

ICTポータルサイト： <https://www.turtle.gr.jp/ict/>

